Message for kids

第03回

子どもにかける言葉について

その子が安心するように、その子が今分かる言葉で話すようにしています。

丹原 史晶さん

子どものアトリエ七星主宰
昭和49年8月生まれ・岡山出身・2児の父親
保育士資格・色彩コーディネーター2級取得、
(株)ハート&カラー認定 チャイルドアートインストラクター
ART&THERAPY 色彩心理協会実践会員

言葉の意味が分からないまま使っている子どもが多いようです。

私の教室の周囲は、田んぼが広がっています。田植えの終わったばかりの田んぼは、蛙の大合唱が響き渡ります。秋には頭を垂れた稲穂が、風にサラサラと音を立てて揺れています。そして、冬の今は、コンバインが敷き詰めた藁を布団代わりにして、春先までの休息です。

稲刈りが終わった後の田んぼを前にして、妻は「思う存分、遊べるね」と息子に声をかけました。しかし、5歳になった息子は、妻がかけた言葉にきょとんとしています。「思う存分って?」。「…」。

普段はほとんど気に留めもせずに使っている言葉が、子どもには「何?」になってしまうことがあるのを、妻も感じてくれたようです。

いろいろな言葉があります。その言葉が目や耳で確認できれば子どもも分かるのですが、気持ちや感情を表す言葉、同じ発音で意味の異なる言葉など、案外、意味が分からないまま使っていることも多いのではないでしょうか。

子どもが分からないことを推理して、あれこれ言葉をかけるようにしています

「先生、やって!」。教室で用意している画材(P73にアトリエ七星の『画材力』について紹介しています)に興味が湧いて選んだはいいけれど使い方が分からない子どもが、私に助けを求めてきます。

子どもの創作は、分かりやすいことが一番だと思っています。

子どもが理解してくれる方法は2通りで、「見て分かる」と「聞いて分かる」です。見て分かるようにすることも苦労が多いのですが、聞いて分かるようにするための苦労は、その何倍もあります。それは、子ども一人ひとりが理解できる言葉が違うからです。

教室で、子どもたちは思い思いに創作に取り組むのですが、自(〃)分がしようとしていることで『分からない』ことが出てきます。

そのとき私は、その子どもが分からないことを推理して、「コノことが分からないのかな」、「分からないのは、アノことかな」、「それとも、ソノことが分からないのかな」と、言葉をかけるようにしています。その言葉が子どもに難しいようなら、言葉をかみ砕いてもう一度説明します。

助け船でかける言葉が子どもにピタッとくれば、しめたものです。ピタッと感じた言葉を頼りに、子どもは画材を使って創作するようになります。

言葉がつくり出すコミュニケーションは、安心と信頼です。

言葉が分かるというのは、とても大切なことです。

まず、「自分に分かる言葉で話してくれた」という安心から起きる信頼です。その信頼がバネになって、子どもはもっとたくさんの言葉を獲得するようになります。分からない言葉について、どんどん質問してくるようになります。

ある日、息子は私に道路標識の『注意』の意味を質問してきました。「それはね、しっかり見ておかないとケガをするということなんだ。『あぶない』なら、分かるかな」。息子は納得したようでした。

そして、そのときの自分に分かる言葉をどんどん増やしていくようになると、子どもは直面する課題を解決する引き出しを、たくさん持てるようになります。

聞いても分からない言葉が多くなればなるほど、子どもは話に耳を傾けなくなります。

言葉が伝わるように、言葉を選んで話すことは、とても大切なコミュニケーションだと思うのです。

子どものアトリエ七星・アウトライン

クラス　月2回第1・3週クラスと第2・4週クラス
(※)は2歳児が対象

水曜日	金曜日	土曜日
10:00~70分(※)	10:00~70分(※)	10:00~90分
13:00~90分	14:30~70分(※)	13:00~90分
16:30~90分	16:30~90分	16:00~90分
18:30~90分		

月謝　土曜日・月2回/5000円、
水曜日もしくは金曜日・月2回/4500円
水曜日もしくは金曜日・月2回(※)/4000円